

<様式>

学 校 名	山形市立明治小学校 山形市大字灰塚454 TEL 681-81473 FAX 684-6879	校 長	中村 昌彦
		研究主任	佐藤 綾
研究主題	試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子供の育成 (4 年次)		
研究主題設定の理由	本校の学校教育目標は、『郷土を愛し、仲間と共に、夢をもって生きる子供を育成する』である。明治小の子供達が、6年間同じ仲間と学んでいくことの強みを生かし、仲間と心を通わせながら、学びを積み重ね、学んだことを生かし、自分たちで考え、学びを、生活を、学校を創っていくことをめざしている。 児童の実態から、研究主題を「試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子供の育成」とし、自分たちの生活や経験の中から課題を見出し、共に解決しようとしながら、更にこれからの自分たちの生活や学習への活用力を高めるような教育活動を展開していきたいと考えた。 研究主題に掲げた「試行錯誤しながら追究し」とは、「やってみたい」「分かってほしい」「解決したい」など、子供自身に湧き上がった思いを原動力として能動的・協働的に問題解決に向かう過程で見せる子供の姿ととらえている。現在の本校の児童の実態からも、学習者中心の視点を大切に、自分の思いをもとに探究を続ける力を育て、資質・能力を発揮しながら学びを深めている姿をめざす。また、「ともに学び合う子供」とは、失敗や間違いをお互いの学びのチャンスと捉えられる温かく安心した雰囲気、力を合わせる共生的な関係の中で、学びを広げたり深めたりする姿をめざしていきたいと考え、本研究の主題を設定した。		
研究の目標	①全ての教育活動において、「試行錯誤を生み出すための工夫」・「学びをつなぐための工夫」の2つの視点に沿って日々の教育活動における実践を重ねていく。 ②子供の育ちに結びつく教師の意識の持ち方や支援の方向性を追究する。		
研究の仮説	・教師が、子供自身で学習課題を設定したり、学習の方法や順序を選択したりする単元を構成することで子供が試行錯誤しながら追究する力が育まれるのではないかな。 ・教師が、子供自身が試行錯誤できる場を工夫して設定することで、子供同士が関わり合い、共に学びあうことの楽しさを子供に実感させることができるのではないかな。		

研究構想図

学校教育目標

郷土を愛し、仲間と共に、夢をもって生きる子供を育成する

「試行錯誤しながら追究し、ともに学び合う子供の育成」(4 年次)

◎めざす子供像 ・試行錯誤しながら探究する子供 ・ともに学び合う子供

試行錯誤を生み出すための工夫

能動的・協働的に解決に向かう過程で見せる姿を、資質・能力を発揮しながら学びを深める姿と捉え、活動を構想する。学び合い、考えを深める授業になるよう、湧き上がった思いや自分の考えを言語化できるようにしていきたい。

学びをつなぐための工夫

すぐには、答えが見つからない問題もある。学びは連続している。そこで、友達と学び合っ解決したり、既習事項を紐解いたり、他教科と合わせたりなど、学びをつないでいくことで、学びを深めていけるようにしたい。

□試行錯誤しながら粘り強く解決しようとするために

- 自分の考えをもち、追究する時間や追究方法の選択を保障する。(個別最適な学び)
- 思考を言語化していくよさを実感できるような工夫をする。
(思考や感性に関わる言葉がつまったノートづくり、思考ツールの活用など)
- 教師の「出」と「待ち」を意識する。
(どんな情報を、どこで、どのように獲得できるようにするか。)
- 発問、言葉かけ、個別支援の工夫
- 視覚的な手立ての工夫

子供がワクワクするしかけ
(場面設定) づくり

□「自分ごと」となる学習課題にしていくために

- これまでの学びや、自分の生活、経験から学習課題を設定する。
- 「解決したい」「こうすればできそうだ」といった子供の強い思いを引き出し、解決の見通し(ゴール・プロセス)がもてるようにする。

□ともに学び合う良さを実感できる授業づくりのために (協働的な学び)

- かかわることのよさを実感し、安心して過ごせる学級経営を行う。
- 子供の思考をつなげる教師の問い返しを意識する。
「それってどういうこと?」「わからない」「ちょっと待って」と自然と言える学級を目指す。
「みんなでやったらわかった」「友達とやったら解決できてよかった」と実感できる経験を積み重ね、価値づけていく。

□学びの手応えを実感するために

- ふり返りで自分の学びや知識のつながりを実感する。
- ふり返りから次の課題を見つけ、自分たちの次の学習につながっていく経験を積み重ねてい

学級カリキュラムマネジメント表の作成

- ・年間を通して育てたい資質・能力のイメージをもつ。
- ・育てたい資質・能力を視点として、教科と教科、教科と特別活動や学校行事をつなぐ。

研究の方法	① 試行錯誤を促す場面と協働的に学ぶ場面を組み入れたカリキュラムマネジメント表の作成 ・ 4月・5月にカリキュラムマネジメント表やアクションプランを全学年で話し合いながら作成する時間を確保する。 ・ 試行錯誤を生み出すために、自由進度学習を取り入れていく。 ・ 子供が育つ学習や活動にするために、「試行錯誤を生み出すための工夫」「学びをつなぐための工夫」の2つの視点に沿って活動内容や支援の在り方などについて意識したカリキュラムマネジメント表を作成する。カリキュラムマネジメント表の作成の際に、年間で重点とする単元を決め、明記する。また、・アクションプランとカリキュラムマネジメントの資質・能力等が関連させ作成する。 ②教職員間での授業についての研修 ～子供たちが「試行錯誤」できる授業づくりをめざして～ ・学校全体での授業研究会(七中校区合同研究会) 【事前研究会①】学級カリキュラムマネジメント表と学習指導要領を持ち寄り、めざす子供の姿、つけたい資質・能力、学びや遊びとのつながりについて話し合い、授業・単元の構想をもつ。 【事前研究会②】予想される子供の思考と指導事項、手立てについて考え、指導案を中心に検討する。 【事後研究会】子供の姿で語り合い、成果と課題を共有する。記録をとり、課題やテーマに沿って全員で検証し、授業づくりに生かす。 ※指導案は、「試行錯誤を生み出す学習課題」「試行錯誤できる場の設定・工夫」の2つの視点、もしくはどちらか1つに沿って書く。 ③子供の姿を共有する場を設定する。 ・ 複式学級で学ぶ子供たちの姿や、複式を生かして子供たちが協働的に学ぶ姿を教師で共有する。重点単元の実践の際に、教師が互いに授業を見合う機会を設定し、視点に沿った手立てを中心に検証する。
研究の計画	・研究全体会… 4/30(今年度の研究の方針・カリキュラムマネジメント表作成) ・7/30・12/22・3/9 単元内自由進度学習の実践をした資料を持ち寄って話し合いを行う。そこで実践してみたの成果と課題、悩みなどを共有する。 ・七中学区4校合同授業研究会…6/24 ・実践記録集の発行… 3月